

第5回「いとう創造大賞」提案概要

テーマ「移住・定住 ～若年層の市外流出抑制と新規転入の促進～」

1 タイトル 伊東市立大学・附属高校の設立

2 内 容

伊東市内には進学校というのがないらしく、進学校に通うには伊東市以外の学校に行かなければならないそうです。学生は、朝早くから運賃が高い伊豆急に乗って高校に通うわけです。そして、進学校からは東京や神奈川などの都市部の大学に進み、伊東市に戻ることなく就職や結婚などでその場所で暮らして…伊東市はどんどん若年層の人口が流出ということなのでしょう。

その他にも、地元の高校卒業後は就職口が少ないので都市部に行ってしまうことも多いでしょう。若年層の流出は、学校がないことと就職口がないことが問題なわけです。

上記の問題の解決のため、将来を見越した提案として『市立大学・附属高校』を設立することが出来な

いかと考えました。

なぜか？

『伊東市は財源がないからムリ！絶対に出来ない』と言われたからです

学校を作るのは、難しいし大変です。

でも、伊東市に大学や附属高校があったら、伊豆半島の教育レベルや子供の教育環境の改善、若年層の流出、雇用、空き家問題などいろんな分野で考えなければならぬことが出てきて、地域の活性化へ向けて大きく動き出す可能性があると思うのです。

大学の学部も芸術、地質学、農業、福祉など、伊豆半島に必要な、または伊豆半島の得意分野で特色のある学部を作るとか、そこから職業として活かして即戦力に繋がる人材育成も出来ると思うのです。

伊東市には多くの芸術家の方がいらっしゃいます。

介護施設もたくさんあります。高齢者率が高いです。

伊豆半島はどこもかしこもジオだらけです。

オリーブオイルだけではなくて、地中海風な農作物がつかれるかもしれません。

大学は専門分野を勉強するところですが、何のために専門分野の勉強をするのかを考えると、それを活かして職業にすることになるのではないのでしょうか。

特色があって魅力ある教育が行われれば、学生は全国から集まります。

いわゆる『ハコモノ』を新たに建設すれば莫大な費用がかかりますが、町全体を『大学の町』にすれば、教室が点在していてもいいわけです。

既存の廃校や廃ホテルを改修して使えるものがあれば使ったり、形にとらわれないやり方もあるのではないかと思います。

最初から出来ないと言ってしまったら、それで終わりです。

本気で伊東市の未来や伊豆半島の子供を含む若年層のことを考えると、高齢者ばかりの『健康保養都市 伊東』よりも『教育都市 伊東』の方が可能性を見出せる気がするのは私だけではないと思います。

教育は、子供を持つ親御さんにとってはより深刻な問題だと思います。

進学や就職を考えると、伊豆半島に明るい展望があるとは考えにくいでしょう。

教育は最重要事項です。